

令和 2 年 11 月 1 日

エンジニアリング協会 関係者の皆様へ

一般財団法人 エンジニアリング協会
専務理事

前 野 陽 一

先月は、雨や曇りの日が多く、気分も晴れない日が続きましたが、皆様お元気でお過ごしでしょうか？

先月のレターでもご紹介しましたが、賛助会員企業の経営幹部の方に対し、私がインタビューをして、その内容を当協会の WEB 等で配信する、という新しい試みを開始しました。

その第 1 回目のインタビュー記事がまとまり、このレターに添付させていただいております。インタビューを受けていただいた株式会社ラックの西本逸郎社長は、講演活動も数多くなさっている雄弁な方であり、インタビューの内容も、「リモートワークの極意」から「郷土愛（北九州愛）」まで幅広いものとなり、皆様に読んでいただければ、「なるほど」と思っただけのものではないか、と思っております。

(https://www.ena.or.jp/?fname=topinterview_202010.pdf)

今回は、一代で日本の弁護士事務所ランキング第 4 位（ジュリナビ 2019 年全国法律事務所ランキング 200）の TMI 総合法律事務所を立ち上げられた田中克郎代表をインタビューさせていただきます。来年 1 月の専務理事レターに添付させていただく予定ですので、お楽しみにお待ちください。

現在のところ、私の「独断と偏見」でインタビューに伺う方を決めておりますが、「我が社のトップのインタビューをしてほしい」というご要望がありましたら、是非ご連絡ください。

以下、10 月の主な活動についてご報告申し上げます。

[主要な活動内容]

1 エンジニアリングシンポジウム 2020 の開催

10月16日(金)に、エンジニアリングシンポジウムを、日本教育会館一ツ橋ホールにて開催いたしました。

今年は例年と異なり、「With Corona」での開催ということで、感染拡大防止に努めたため、「ご来場いただく人数を制限する」「交流会を行わない」「休憩中もできる限り会話を控えていただく」など、様々にご不便をおかけいたしました。多くの方々にご参加いただきましたことに、感謝申し上げます。

ご講演はいずれも興味深いものでしたが、特に、午後の特別講演では、2019年のノーベル化学賞を受賞された吉野彰様にご登壇いただき、質疑応答も活発になされるなど、大いに盛り上がりました。

お越しいただいた皆様からは、「久しぶりに、オンラインではないリアルの講演会に参加したが、やはり迫力が違う」「主催者側が新型コロナ対策を十全に行っているので、安心して聴講できた」といったご意見を頂けました。

今回のエンジニアリングシンポジウムについては、参加者数を制限したことに鑑み、当協会WEBの会員のページから、録画配信するよう準備を進めております。11月中下旬には配信できる予定ですので、お楽しみにお待ちしております。

2 講演会の開催

10月は、3件のビジネス講演会を行いました。

11月は、2件の特別講演会及び5件のビジネス講演会(うち3件はZoom配信)と、1件の安全法規部会主催の講演会を実施する予定です。

皆様のご参加をお待ちいたしております。

3 外務省との勉強会の開催

10月5日(月)に、外務省経済局、北米局及び国際協力局の幹部の皆様と、エンジニアリング協会の賛助会員企業との間で、「水素の利用促進」をテーマに勉強会を開催いたしました。

外務省側からは、公務お忙しい中、四方経済局長、赤松大臣官房参事官(大使)ほかの皆様がご出席になり、エンジニアリング協会側からは、岩谷産業株式会社、川崎重工業株式会社及び千代田化工建設株式会社の皆様にご出席いただきました。

会議では、「脱炭素化」の切り札とされる水素の利用促進に関し、約90分間、熱心な議論がなされました。

4 川崎地質株式会社 栃本泰浩 代表取締役社長 ご訪問

10月7日(水)に、社長就任のご挨拶として、川崎地質株式会社 栃本泰浩 代表取締役社長が、内藤正 代表取締役会長とともに、コロナ禍の下、わざわざ当協会にご訪問いただきました。

5 経済産業省 商務情報政策局産業保安グループ 正田聡 保安課長 訪問

10月28日(水)に、経済産業省 商務情報政策局産業保安グループ 正田聡 保安課長をご訪問し、インフラシステムの保安の状況などについて、お話をさせていただきました。

6 その他

11月3日(火)は、米国大統領選挙の投票日です。日本人が投票権を持っているわけではないのですが、日本のマスメディアも、国政選挙並みの報道ぶりです。

日本のマスメディアの報道では、米国での世論調査の結果をもとに、「圧倒的にバイデン候補有利」といった感じですが、前回の選挙で、最後まで「ヒラリー候補が有利」との世論調査結果があったにもかかわらず、トランプ氏が勝利したことを考えれば、今回も予断を許さないような気がしております。

このレターがお手元に届く頃には、既に結果が分かっており、恥をかく可能性もあるのですが、敢えて10月下旬の段階で、私の感じているところを申し上げれば以下のとおりです。

① 今回の選挙は、「トランプ支持 対 バイデン支持」というより、「トランプ支持 対 反トランプ」の戦いである。

アメリカの主要マスメディアの報道ぶりは、ほとんどが「反トランプ」であり、「バイデン候補の個々の政策が素晴らしい」といった話はあまり聞きません。他方、ほとんど人の集まらないバイデン候補のイベントに対し、トランプ大統領のイベントは、大勢の人が「三密」で集まっています。要は、「トランプ大統領が好きか嫌いか」の選挙のような気がします。

② 今回の選挙結果は、「トランプ勝利」「バイデン勝利」のほかに、「どちらも勝利を主張する(勝利者が決まらない)」こともある。

バイデン氏の子息(ハンター・バイデン)をめぐるスキャンダルを、米国の主要マスメディアがほとんど報道しないなど、その報道ぶりはかなり偏っており、「バイデン有利」の報道をそのまま信じていいか、わかりません。また、共和党は郵便投票に疑義を唱えており、法廷闘争になる可能性もあります。最後は、保守派が多数の連邦最高裁で「トランプ勝利」が決着する可能性もあると思っています。

③ 米国の世論調査は、必ずしもあてにならない。

日本のマスメディアの勝敗予想は、米国における世論調査をベースにしていますが、前回の選挙（2016年）でも明らかになったように、米国の世論調査は、必ずしもあてにならないようです。その原因は、世論調査を行う主要マスメディア（CNN など）の多くが、「バイデン支持」を表明しており、トランプ支持者が世論調査を受けた場合、回答を拒否するか、場合によっては、「バイデン支持」と嘘をつくこともあるからです。いずれにしても、「隠れトランプ支持者」がかなりいることは、多くの有識者（民主党支持を標榜している人を含む）が認めているところです。

11月の講演会の実施について

令和2年11月1日
エンジニアリング協会
専務理事 前野陽一

11月は、2件の特別講演会及び5件のビジネス講演会（うち3件はズーム配信）と、1件の安全法規部会主催の講演会を実施する予定です。特別講演会及びビジネス講演会の開始時刻は10時30分ですが、安全法規部会主催の講演会は、開始時刻が16時となっておりますのでご注意ください。皆様のご参加をお待ちいたしております。

1 生物・生体を規範としたソフトロボットによる産業技術革新をめざして (11月4日(水) Zoom ライブ配信)

中央大学 理工学部 教授
株式会社ソラリス CEO 中村 太郎 様)

今回は、中央大学から生まれたベンチャー企業（㈱ソラリス）が開発したソフトロボットによる生産システムの革新に関して、ご説明いただきます。

生産システムの革新をお考えの方や、ベンチャー企業との協業をお考えの方には、是非お聞きいただければと思います。

2 交通インフラ海外展開をめぐる現状と課題

(11月5日(木) 国土交通省 国土交通審議官 藤井 直樹 様)

官民一体となって推進しているインフラシステム輸出ですが、今回の講演では、特に交通インフラに焦点を当てて、藤井直樹国土交通審議官からお話を伺います。

経営幹部の皆様を含め、多くの方にお越しいただければ幸いです。

3 EPC プロジェクト

工程遅延分析 (Delay Analysis) の概要と実務上のポイント

(11月10日(火)) Zoom ライブ配信

システックインターナショナル

マネジングコンサルタント 大野 紳吾 様)

海外のEPCプロジェクトでは、様々な原因により工程遅延が起きますが、この際、コントラクター側が適切な対応をとる必要があります。

今回の講演では、日本ではあまり知られていない工程遅延分析 (Delay Analysis) の実務について、お話しいたします。

法務部門や工務部門の皆様にお聞きいただければ幸いです。

4 気候変動問題への対応に加え、「責任あるエネルギー政策」の実現に向けて ～石油・天然ガスを取り巻く世界の潮流と日本のエネルギー政策～

(11月17日(火)) 経済産業省 資源エネルギー庁 資源・燃料部

石油・天然ガス課長 早田 豪 様)

世界のエネルギー情勢は、従来の脱炭素化の流れに加えて、新型コロナウイルス感染拡大による石油需要の減少など、大きく変化しています。

こうした中で、日本政府も、10月13日から、国の中長期的なエネルギー政策の基本である「エネルギー基本計画」の見直し作業に着手しました。

今回の講演では、気候変動対策にしっかりと取り組みながら、エネルギーの安定供給を確保し、持続的な経済成長を実現するという「責任あるエネルギー政策 (Responsible Energy Policy)」の実現に向けた石油・天然ガス政策の今後の展望や方向性について、ご担当の早田課長からお伺いします。

エネルギー関係部門の皆様には、是非お越しいただければと思います。

5 グローバルプロジェクトの課題の AVEVA の取り組み

～ Beyond Engineering ～

(11 月 25 日 (水) Zoom ライブ配信

アヴィバ株式会社 カントリーマネージャー 小暮 正樹 様)

デジタルトランスフォーメーション (DX) が様々な分野で進んでいますが、プラント建設プロジェクトでは、その活用事例が少ないのが実態です。

今回の講演では、プロジェクト遂行の効率化の観点から、DX を推進するために、プロジェクト管理から経営企画まで、幅広い部署がいかに取り組むべきかについて、海外の具体的事例をベースにお話しいたします。

工務部門や企画部門の皆様にお聞きいただければ幸いです。

6 東日本大震災からの復興の現状と課題

(11 月 26 日 (木) 復興庁 事務次官 由木 文彦 様)

復興庁は、2011 年 3 月に起こった「東日本大震災」の被災地の復興のため、2012 年 2 月に設置された組織です。

今回の講演では、復興庁の事務方のトップである由木文彦事務次官から、震災から 10 年が経過しようとする被災地の復興の現状と課題について、お話しいただきます。

経営幹部の皆様を含め、お越しいただければ幸いです。

7 最近の機械等の安全行政の動向について(仮題)

(安全法規部会主催)

(11 月 26 日 (木) 16 時から Zoom ライブ配信

厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 安全課 増岡 宗一郎様)

安全法規部会が定期的で開催している安全法規に関する講演会です。機械等の安全行政の最新動向について、お話しをいただきます。

8 コロナ禍における海外での安全確保

～ 政府の取組と企業の皆様へのお願い ～

(11月27日(金)) Zoom ライブ配信

外務省 領事局 邦人テロ対策室長 石丸 淳 様)

新型コロナウイルスの感染拡大により、諸外国では、入出国の制限や外出規制などの措置が取られています。こうした中で、海外の駐在員や出張者の皆様にご注意いただきたいことをお話しいたします。

安全対策部門や人事部門の皆様のお越しを、お待ちしております。

[第1回]

LAC

株式会社ラック

代表取締役社長

西本逸郎氏



「日本社会の守護者」を目指して ～テレワークの成功の秘訣は「雑談力」～

日本社会における情報セキュリティを支えてきた(株)ラックは、新型コロナウイルス感染拡大を契機に、「新日常」に合わせた事業の革新を進めており、その成果を他の企業にも広げようとしている。

新企画「会員企業トップインタビュー」の第1回目は、会員各社にとって、今後の事業活動に必要不可欠となる、情報セキュリティを担う(株)ラックの西本逸郎社長をお訪ねした。

今回のインタビューでは、豪放磊落さと緻密さを併せ備えた西本逸郎社長から、その事業革新のポイントをお聞きした。

**創業の精神は、
「小さくなっていく地球の中で、
日本社会を守る」**

—(株)ラックと言えば、情報セキュリティの世界では、知らない人は少ない企業だと思っていますが、はじめに、御社の創業の理念や沿革について、ご説明いただけますか。

西本 当社は、分社化などにより企業形態の変遷はありますが、元々は1986年にソフトウェアの受託開発を行う会社として創業いたしました。創業当初は、世の中のIT化の流れに乗っていたのですが、1990年代から始まったITバブル崩壊により、業容が悪化し、「このままではいけない」という

ことで始めたのが、現在当社の屋台骨の一つとなっている「情報セキュリティ事業」です。

(株)ラック(LAC)は、「Little eArth Corporation」の略であり、ITの利用で今後小さくなっていく地球上で活躍する企業を目指すという意味が込められています。また、創業者はいつも、「国を衛



2017年7月にリニューアルしたJSOCは、ホワイトハッカーをイメージした白を基調とするデザイン。約900団体、約2,000センサーの監視、分析を行っており、その数は国内最大規模を誇る。

る」「日本社会を守る」ということを言い続けておりました。その意味で、「情報セキュリティ事業」に踏み出す素地は、初めからあったとも言えます。

——御社の「情報セキュリティ事業」と言えば、「JSOC」が有名ですね。

西本 JSOC（ジェイソック；Japan Security Operation Center）は、お客様企業のセキュリティ監視・運用サービスの拠点であり、2000年から運用を開始しております。365日、24時間体制で、「セキュリティアナリスト」と呼ばれるプロフェッショナルのエンジニアが、お客様企業に対する不正アクセスの監視と対応を行っているわけです。新型コロナウイルス感染拡大が起こった際に、私が心配したことの一つが、このJSOCでした。仮に、JSOCのエンジニアの一人が感染し、他のエンジニアが濃厚接触者ということで出社できない、さらにJSOCの封鎖ということになれば、JSOCの機能は停止してしまいます。それぞれのエンジニアは、情報セキュリティのプロフェッショナル

であり、簡単に他の者で代替できるわけではないからです。

当社では、新型コロナウイルス感染拡大以前から、リモートワークの推進について検討を進めておりましたが、今回、テレワークを実施する緊急の必要性に迫られたわけです。

リモートワーク成功の秘訣は？

——ここで、本日私が一番お聞きしたい話題に移りたいと思います。それは、「リモートワークをいかに成功させるか」ということです。「新日常」の中で、多くの企業がリモートワークを取り入れていますが、成功している企業はあまり多くない、と承知しています。

他方、㈱ラックでは、最近自社の経験も踏まえて、「テレワーク導入便覧」を公開されました。何が、リモートワーク成功の秘訣なのかを、お伺いできればと思います。

西本 まず、当社が発表した「テレワーク導入便覧」をご紹介します。お陰様で様々なお問い合わせもあり、好評だと自負しております。

私どものビジネスは、工場のような現場を持っておりませんので、その意味ではリモートワークはやりやすい業種と言えるかもしれません。

しかし、我々が行っているシステムインテグレーション（SI）のビジネスでは、弊社の社員がお客様企業に常駐しているケースが多く、仕事を持ち帰ることもお客様企業のご了解なしにはできません。したがって、まず、「『新日常』の中で、弊社の社員がリモートワークを行うことが、お客様企業にとってもメリットとなる」ということを理解していただくのが結構大変でした。

——実際にリモートワークを本格導入されて、困ったということはないのでしょうか。

西本 問題は、様々にあります。まず、総務や経理といったコーポレート部門では、書類の山で、ハンコを押さない仕事になりません。また、何か仕事上のトラブルが生じた際に、オフィスで仕事を行っているときは、「あそこで社員が集まって、コソコソ何かを話している。これは何かあったに違いない」と社長の私が見つけることが

容易で、初期の段階で消火ができました。これがテレワークになると、「火が燃え盛ってから社長に話が届く」ということになりがちです。さらに、誰かが上司から注意を受けているのを見ていれば、他の社員も「同じような失敗はしないようにしよう」と気づく機会となりますが、テレワークではなかなかそうしたことも起こりません。

——テレワークでは、社内のコミュニケーションが希薄になりやすいということでしょうか。

西本 テレワークでは、インプットとアウトプット双方向のコミュニケーションがうまくいかないことが生じがちです。この状況を打開するために、私が重視しているのが「雑談力」です。当社では、社内会議の前に雑談して、リラックスしてから仕事の話に移ります。雑談ですから、途中参加や退出も自由で、話題も「昨晚の夕食はおいしかった」とか「テレワークをしていると、女房がうるさい」など、たわいのない話がほとんどです。最初は、毎朝始業前に30分間雑談をする、ということから始めたのですが、今は様々な会議の前に、「雑談タイム」を設けています。当社には「技術屋」が多くいるのですが、一般的に言って、彼らは雑談がうまくありません。私は、「筋トレのように毎日訓練して『雑談力』を身につけろ」と叱咤激励しています。

リモートワーク 成功のための雑談

——リモートワークに向く人、向かない人といったことはあるのでしょうか。



西本 一般的に言って、若い人はITを使ったコミュニケーションに慣れています。当社では、コロナ禍の新入社員教育をリモートで行いましたが、特に問題はありません。新入社員同士のコミュニケーションも、とれているようです。ただし、「愛社精神を育てる」といったことは、リモートでは難しいようです。他方、シニア層は「オフィスでの仕事」を好む人が多いようです。今まで平日の昼間にオフィスに出ていた人は、家での居場所がないのかもしれない。また、世代・性別にかかわらずリモートワークにストレスを感じる人も一定数おります。男性エンジニアは、一人きりで仕事することに違和感があまりないようなのですが、同僚との「おしゃべりタイム」がないのは大変寂しく孤独感を感じる社員もおるようです。

——西本社長は、そうした人たちのために、「社長ラジオ」を始められた、と聞きました。

西本 リモートワークを本格導入してから、「お昼のひと時」というオンライン雑談を始めましたが、大体私が話してますので、思い切って社内ラジオに切り替えました。「週2回私が雑談をするので、時間がある人は聞いてください」といった感じでした。そのうち、せっかくだから、会社の経営計画を説明してくださいなどと言われて、ならばということでラジオにしました。社員が経営計画に興味を持ってくれたことは、大変良かったと思っています。また、私が一方向的に話すだけでなく、社員からの「お便り」を読む、といったコーナーも設けており大人気で私は今やラジオパーソナリティです（笑）。

西本 逸郎（にしもと いつろう）

1958年生まれ。福岡県北九州市出身。
1984年 4月 株式会社日本コンピューター・サービスセンター
（現 情報技術開発株式会社）入社
1986年10月 株式会社ラック入社
1991年 4月 同社 取締役
2014年 4月 同社 取締役 兼 専務執行役員 CTO
2014年 9月 株式会社ブロードバンドタワー 社外取締役（現任）
2017年 4月 同社 代表取締役社長（現任）



プログラマーとして数多くの情報通信技術システムの開発や企画を担当。2000年より、情報通信技術の社会化を支えるため、サイバーセキュリティ分野にて新たな脅威への研究や対策に邁進。わかりやすさをモットーに、サイバーセキュリティ対策の観点で、官庁や公益法人、企業、大学、各種イベントやセミナーなどでの講演や新聞・雑誌への寄稿、テレビやラジオなどでコメントなど多数実施。

——お客様企業に常駐されている社員も多いと聞きましたが。

西本 そういった社員は孤独感を感じやすいので、私が出向いて一緒に昼食をとり、様々な話をするようにしていました。現在は新型コロナウイルス感染拡大で中断していることもあり、誰でも参加のできる雑談会やラジオを始めたところもあります。

品位と尊重、情熱と結束、規律と格闘

——最近、北九州市に「ラックテクノセンター北九州」をお作りになりましたが、これは、西本社長が北九州市出身ということにも関係しているのでしょうか。

西本 そう誤解する方も多いのですが、全くそうしたことなく、純粋に当社が研究開発拠点を作るのであれば、北九州市が最適地である、と判断したためです。まず、北九州市役所の方々が積極的ですし、古くから鉄鋼業をはじめとする製造業の伝統があり、工業系の大学や高校が集まるなど、人材の確保も容易です。もちろん、私は生まれ育った北九州市を愛しており、微力ながら地元のサッカーチーム（ギラヴァンツ北

九州）も応援させていただいております。

——最後に、西本社長の経営理念をお伺いしたいのですが。

西本 当社の行動憲章の中で、「品位と尊重、情熱と結束、規律と格闘」ということを掲げています。私は、学生時代にラグビーをしていたのですが、その中で、ラグビーは、「格闘」故に品位と尊重の上にルールを守るという規律が重要で、さらに勝ち抜いていくためには、情熱、結束といったことが大切だということを学びました。ビジネスの世界も、ラグビーと同様「格闘」です。もちろん、ビジネスパートナーとの間では「Win-Win」の関係を目指すという意味で、ラグビーと全く同じで



はありませんが、行動力憲章として大いに参考になります。

——本日は、たいへんありがとうございました。

インタビュー後記

訪問を終えて、私はこんなことを考えました。「豪放磊落さ」と「緻密さ」は、どこか相反することのように考えがちですが、人が人との間で仕事をする中であって、人間力の基なのかも知れないと。西本社長は学生時代にラグビーを経験されて、個人の力とチームの力の出し方を体得されたのかもしれない。これからの日本に必要な情報セキュリティの分野であって、相方を併せ持つ西本社長のご活躍を期待したいと思います。

聞き手：当協会専務理事
前野 陽一

会員企業データ

社 名：株式会社ラック
事業内容：セキュリティソリューションサービス／システムインテグレーションサービス／情報システム関連商品の販売およびサービス
設立：2007年10月1日
所在地：東京都千代田区平河町2丁目16番1号 平河町森タワー
従業員数：連結 2,270名(2020年4月1日現在)
ホームページ：https://www.lac.co.jp/

(株)ラック様の「テレワーク導入便覧」は、同社のホームページから無料でダウンロードできます。

https://www.lac.co.jp/lacwatch/service/20200825_002261.html

